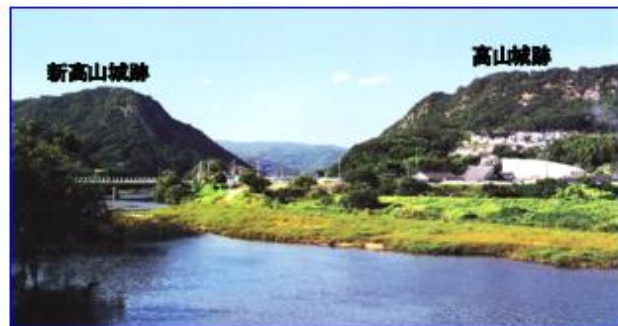


詰の丸には；音声説明機を設置



距離表



国史跡 昭和32年12月11日 指定
 続日本100名城 平成29年4月6日(日本城郭協会選定)
 小早川氏城跡

竹原小早川家から本家沼田小早川家の17代となった小早川隆景は、高山城へ入城した1年後、天文21年(1552)、副壘としていた沼田川対岸の新高山山頂の砦を修築し、ここに本拠を移した。新高山城からは沼田川流域や河口の展望がよくきき、水運の便もよく、また、家臣の人心一新のため城替えしたといわれる。沼田川をはさんで高山城に対峙し、北側と東側は沼田川によって天然の濠をなしている。標高197.6m、東よりの中腹以上の斜面には岩石が露出し、いたるところに岩壁がそそりたち、するどくそびえた峻厳な山容である。城の縄張りは東西約400m、内郭は頂上尾根や鞍部を巧妙に活用して本丸・東の丸・ライゲンガ丸・中の丸・釣井の段(井戸郭)・西の丸・北の丸等が構築されている。外郭は斜面の中腹から張り出した二つの尾根を利用し、大手側を固める意図をもって巧妙に配置され、匡真寺跡・鐘の段・番所跡・紫竹の丸・シンゾウス郭・大手道などがある。これらの郭はすべて地山を削平し、又は、切削り、あるいは掘切り、必要な箇所は石積で補強し、随所に帯曲輪や腰曲輪で結ばれ、また、石垣、空堀、豎堀を設けている。とくに近世城郭に関連する枡形城門の採用が各所にみられる。

三原市 本郷町観光協会
 平成29年5月発行

ガイド案内連絡先
 三原市本郷南5丁目26-11
 Tel. 0848-86-5717
 9時～12時・平日



新高山城跡



新高山城跡周辺マップ



新高山城跡

小早川隆景は天文21年(1552)に新高山城を築き、人心一新のため城替えを行った。永禄10年(1567)には三原城を築き、前進基地としている。その後も伊予の道後(湯桑)城、築前(名島)城と居城を移すが、この間も、新高山城を小早川氏の本拠の城として確保した。しかし、慶長元年(1596)、新高山城を壊し、その石で三原城を修築、隠居所と定めた。



④ 中の丸跡へと続く石段の上は門跡とされる。



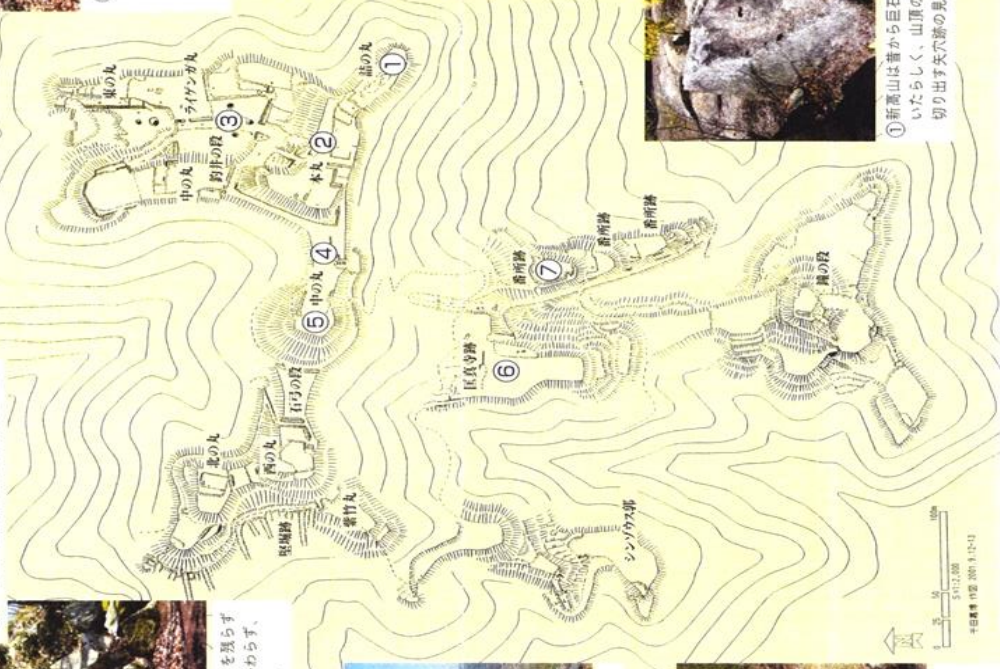
④ 三原城修築の際、この城の石垣の巨石を残らず三原に運んだといわれているにもかかわらず、まだ各所に石垣の一部が残存している。



③ 山頂に近い約井の痕(井戸跡)には、立派な石積みの大井戸が6ヵ所あり、多勢の武者たちが山上生活をしていたことを物語る。ヤマザクラ・ヤブツバキ・ツツジ等が咲く早春には、絶好のハイキングコースとなる。



② 本丸跡には枳形の土塁や建物礎石等があり、永禄4年(1561)には毛利元就・隆元親子が10日間滞在し、隆景は、金所、義隆、数、豊産、高間、常の茶の湯の間などの建物で、連日、能楽や運動、太平記読みなどを催して豪邸接待している。



⑤ 中の丸跡からは松木の跡が窺わたせる。



⑥ 天正5年(1577)、隆景は、南朝中護の所に龍門山匠真寺を建立し、父元就の7回忌、母妙妙の33回忌の法要を行った。寺跡からは多量の瓦が出土している。



⑦ 番所跡は3段あり、土塁が今も残る。



② 約井の段側から本丸跡へと登りきったところには門があったとされる。



② 本丸跡に残る礎石。



① 新高山は昔から巨石を多く産出していたらしく、山頂の七の丸には石を切り出す矢穴跡の見える石が多い。



① 対岸の高山城跡は、土肥長平から4代目長平の時代に築城され、17代隆景が新高山へ城替えをするまで約350年間沼田小早川氏の居城となった。



① 七の丸跡にある石造物。



① 七の丸跡に立つと、眼下に沼田川によってひろげられた本部の町や瀬戸内海が望める。